

景況実感調査(2015年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載していません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 酸洗鋼板については、外材が既に入っている様子で、値下げの波が強い。7月以降も先安観が出ており、荷動きが停滞している。
- ② 自動車・住宅・建設向けは生産減がきつく不振。第一クォーター最終月となったが、通期での収益は悪化。6月単月では、実稼働日が20%増となった分、売上、数量とも前月を25%程度上回り、前年同期並みとなった。薄板三品の在庫も430万トンを超えてきており、過剰感が市況悪化を証明している。EG品も僚品を含め明らかに赤字販売と思われるものも多く見受けられる。梱包資材(木材・紙 etc.)も20%前後の値上がりとなっており、ドライバー不足からか運賃も燃料値下がりのおかげはない。販売面での7月好転は望めず、8月夏休み明けからの動意はあるのではないか。
- ③ 荷動きは5月より多少良かったものの、この4～6月は過去20年で最も低い数量であった(店売り分野)。この先相場が下がることは間違いないような商況に入りつつある。
- ④ 稼働日数が多い分、多少増。

中板

- ① 店売りは相変わらず荷動き低調であり、減産の効果が全く出ていない。ユーザーは秋需に期待しているが、明るい兆しは全く見えない。夏場にかけて与信不安も出て来るだろう。

厚板

- ① 6月に入りさらに悪化。深刻な状況が続いている。

—舟安开金鋼

- ① 5月20日過ぎから、小口主体だが荷動きの潮目は変わったようだ。小口の仮設資材と思しき出荷が多くなり、他の分野への出荷も4、5月の底を脱したようだ。7月もこの流れに変化はないだろう。
- ② 現場の動きが有る所と、無い所が分れている。

II开金鋼

- ① 6月は5月比で出荷量は増えたものの、まだまだ低調なレベルである。7月からメーカーは夏季減産となるが、需要が増えるにはまだ時間がかかると思われる。早めに需要が出て来ることを期待する。
- ② 市況の底打ちも近いと思われたが、まだはっきりとしない状況である。需要の回復が実感できないことと、メーカーの対応の不透明さがあると思われる。

異形棒鋼

- ① 浦安の在庫販売は低位ながら動きは変わらない。価格も一応安定している。メーカーのユーザーへの直送は、ユーザーの様子見の中、鋼材店間の競争により先鋭的な価格もあるが、全体としては横這いである。
- ② 杭用鉄筋の出は良いので、秋口には上物用の鋼材の出も期待できるのではないだろうか。
- ③ 4～6月期の荷動きは近年になく不振で、厳しい環境であった。新規需要の引合い、成約が少ないため、流通としては売上不足もあって採算が取れず、身動きが出来ない状況にある。

平鋼

- ① 荷動きは、稼働日の増加分が増えただけで横這い。東鉄発表後に一部で在庫用の動きがあったが、先々の期待感はあるものの足下の荷動きが悪く、在庫意欲も低下したままだ。価格はようやく底値が見え、弱含みから横這いへと落ち着いてきた。

軽量開鋼

- ① 7月から徐々に受注が伸びる見込み。9月からは大型物件への納入も始まるため、急激な出荷の伸びになると予測する。

鋼管

- ① 荷動きは5月から日当たりは変わらず、低調なままである。
- ② 5月から多少荷動きが出てきた。ただし、顧客の在庫意欲は低く、必要なものを随時購入しているだけだ。6月後半から7月、多少見積りが増加しているが、大きな期待はできない。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は自動車メーカーによってバラツキがあるものの、全体的に回復傾向となっている。建設機械関連は、大型機種を中心に生産調整が続きており、先々も不透明である。工作機械向けは、海外向けおよび国内投資促進税制の後押しもあり、引き続き堅調な動きとなっている。店売りの荷動きは、建設機械向けが減速している影響もあり、振るわない状況が続いている。市況は弱含み横這いで推移している。
- ② 相変わらず荷動きは悪い状態。市況も弱含みで推移している状況。

その他

<曲げ加工>

- ① 今月は仕事の量が少なく、細かいものが多くて手間のかかるものばかりで、加工売上が上がらず、昨年同月、本年5月よりも減少した。全般的に業界そのものが不況傾向で、思うような忙しさにならない。一時的に増えたり、減ったりの繰り返した。早く良くなってもらいたいものである。

<スクラップ>

- ① メーカー減産、輸出も低調、発生屑減少、価格下落。相変わらず厳しい状況が続いている。

<金属表面処理加工>

- ① 6月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットは中旬以降、活発な動きとなり、次月も同様に高水準での扱い量で推移しそう。先物件の見積り依頼も多く、7月以降も期待できそうである。7月から新ラインを稼働。この最新鋭ラインを駆使して品質の更なる向上と、高付加価値の加工を増やし顧客満足を更に追求していく。